



林 声



OKAYAMA

お か や ま

No.351. 2000. 5. 1



宗 堂 桜 (瀬戸町)

目 次

○就任のごあいさつ	2～3
○シリーズ地域の名木	4
○普及指導最前線	5
○木材の需要拡大について	6
○普及指導区の紹介	7

○「おかやま森づくり県民基金」 について	8
○図書の案内	9
○林産物市況等	10

就任の「あいさつ」

農林水産部参与

(林政課長)

浪速 昭彦



風薫る新緑の候を迎え、会員の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私、この度の人事異動により林政課長を拝命いたしました。就任にあたり一言御挨拶申し上げます。

御承知のとおり、近年、森林に対する社会的要請は、木材生産だけでなく、公益的機能の高度発揮など、一段と多様化してきております。

このような中、県では岡山の森林・林業のあるべき姿や豊かな森林を次世代に引き継ぐための道筋を明らかにした「岡山二十一世紀森林・林業ビジョン」を策定しているほか、緑豊かで健全な森づくりを県民参加で推進するための「おかやま森づくり県民基金」を創設しました。林業普及指導事業も発足以来五〇年が経過し、これまで、地

域林業の振興、森林・林業のPR、林業後継者の育成等に大きな役割を果たしてきましたが、二十一世紀は環境の時代といわれており、環境と調和した循環型社会の構築が求められています。新しい時代に対応できる新たな普及指導事業を推進することが必要となっております。

今後の普及指導事業は、国際的な課題である持続可能な森林経営の推進を図るとともに、森林・林業及び地域の皆様方が直面している新たな課題に的確に対応できる指導体制を確保してまいりたいと思います。

また、林業の振興と森林の維持管理に必要な担い手対策等、各分野で様々な施策を展開しております。

これらの施策の推進にあたりましては、地域の皆様方をはじめ、市町村等関係機関と連携を図りながら進めてまいりたいと存じますので、今後とも御支援、御協力をお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

治山課長

原 肇宏



青葉若葉の候、林業改良普及協会会員の皆様にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この度四月一日付けて治山課長を拝命しました。就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

ご案内のように、森林は再生産可能な資源であると同時に、水や空気をきれいに保つ働きをします。

二十一世紀は循環型社会を目指す指さなければならぬと言われておりますが、こうした働きをする森林は、循環型社会を構築していくうえで、大変重要な役割をもっております。

このように考えるとき、県土の約七割を占める森林の整備、特に遅れている間伐は緊急に実施する必要がありますので、本年度から「緊急間伐五カ年対策」に取り組むことといたします。

市町村を中心として計画的、集团的かつ徹底的に間伐を実施いたします。一方で、広葉樹林の育成や長伐期施業にも取り組むこととしております。

治山事業は、山地災害から県民の貴重な生命や財産を守る、極めて重要なものである。自然環境や森林生態系に配慮するとともに、費用対効果やコスト削減なども勘案しながら適切に実施いたします。

加えて、保安林の適正な管理はもとより、秩序ある林地開発を指導することにより、災害に強い安全な地域づくり、水源地域の森林機能の強化、豊かな生活環境づくりなどを推進する考えであります。

林道事業は、林業生産費を低減し、地域林業に対する効果の発現が早く、農山村地域の振興に大きく寄与しております。

このため、林道の開設、改良等にあたっては地域の要望を十分聴き、供用を早めるよう努めるとともに、林道と作業道とを組み合わせることにより、効率のよい林内道路網を整備したいと思っております。

市町村や関係団体等と一層連携を深め、精一杯努力する所存でございますので、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

末筆になりましたが、会員並びに関係の皆様のご多幸、ご繁栄を祈念申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



木材加工技術センター所長
佐藤 国利
風薫るさわやかな季節となりました

が、会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

私は、四月一日付けの人事異動によりまして、木材加工技術センター所長を拝命いたしました。前任地の生活環境部自然保護課では、野生動植物をはじめとした自然環境保全業務の一端を担わせていただきましたが、木材の生産はもとより、森林の重要性を再認識し、県民の皆さんの森林に対する期待の大きさを改めて痛感いたしました。

県内には、皆様の御努力により育成されているヒノキやスギなどの多くの資源があります。これらの木材が有効に利用され、再び望ましい姿の森林を造成することが、森林・林業の振興であり、地域社会の発展を促進し「快適生活県おかやま」の実現を目指す私たちの役割であると思います。

当センターは、長期にわたり

木材需要が低迷するなかにあつて、一九八八年に創設以来、消費者ニーズや関係業界の動向を踏まえ、多くの調査・研究を行って参りました。近年では、高品質の乾燥材を低コストで生産する技術開発、県内産針葉樹材の強度試験、腐朽などに対する耐久性調査、新JASが要求する信頼性の高い集成材の生産技術の確立など県産材の需要拡大のための試験・研究に取り組んでおります。

この他、各種試験の受託、最新情報の提供、加工技術の指導・助言、残廃物の有効利用法、研修などを行うとともに、木工芸品のデザイン開発、関係機関と協力し木材需要拡大の普及・啓発も行っておりますので当センターの積極的な御利用と一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

私も、微力ではありますが、木材加工技術の向上と需要拡大に努力する所存でございますので、旧倍の御指導、御鞭撻を賜わりますようお願いいたします。簡単ではありますが就任のあいさつとさせていただきます。

県立森林公園が

オープン

冬の間閉園されていた岡山県立森林公園（苫田郡奥津町・上斎原村）が、四月二十一日開園しました。

森林公園は鳥取県との県境、中国山地に位置し、面積は三三四ヘクタール、標高は八四〇メートル、一〇〇メートルあります。

今年例年より雪解けが遅く、公園内の園地や歩道の一部に雪が残っている状態での開園となりました。

公園内の森林の大部分は、ブナ、ミズナラなどの落葉広葉樹が占め、一部カラマツ、スギなどの針葉樹も見られます。

また、溪流沿いの湿原ではザゼンソウ、ミズバショウ、バイケイソウ、オタカラコウなどが観察できます。

これから、新緑の初夏を迎えて、園内にはいたるところで小鳥たちがさえずり、巣作りをはじめます。

みなさんも一度訪れてみてはいかがでしょうか。



ミズバショウ

問合せ先 森林公園管理事務所
電話（〇八六八）五二一〇九二八

シリーズ地域の名木 7

「宗堂桜」は、一名「雲哲桜」ともいわれ、いくつかの伝説を持つ神秘的なただよいのある桜です。

いまから三〇〇年前、寛永の頃、この桜のある赤磐郡瀬戸町宗堂には、宗堂山妙泉寺という寺があり、高僧雲哲上人が在住し多くの帰依者がありました。雲哲上人は大変な花好きで、自分の寺から大門に至る約二〇〇mの参道の両側に、数十本の八重桜をぎっしりと植えていました。春になると菜の花やレン



ゲ草、ツツジ、山桜が花盛り、寺からは参道の桜が満開となり、平和な堂山の里は、一面花に埋もれていました。

ある四月、雲哲上人は、藩主の招きで後樂園の会食に出席しましたが、日蓮宗不受不施派の僧であったためか、毒を盛られてしまいました。早馬で宗堂山に帰りましたが、妙泉寺の参道、雲哲上人お手植えの桜並木にたどり着いたところで命を絶ったのでした。

ちょうどこのとき、桜は花をつけ、やがて咲き揃おうとしていましたが、雲哲上人の死を嘆いたためか、それ以後花びらは開ききらずにしぼんでしまい、結実することはありませんでした。

このような神秘的な伝説で語り継がれる「宗堂桜」は、八重桜の一種で、花の色は淡紅紫色、直径は三から四センチメートル、花弁の数は六〇枚と非常に多く、内側の二〇枚は内に向かって屈曲

反転し、カール状となる特性を有しています。このため、花は小ぶりですが花弁はふくらんでみえ、大変豪華さを感じさせます。花弁が屈曲反転する特性は他に類がなく、昭和三十一年に、岡山県の天然記念物に指定されています。

また、この桜の繁殖は極めて困難であり、他の土地に移し植えても育たず、もし育つても花の色が変化して宗堂桜の特徴を現さないと言われています。

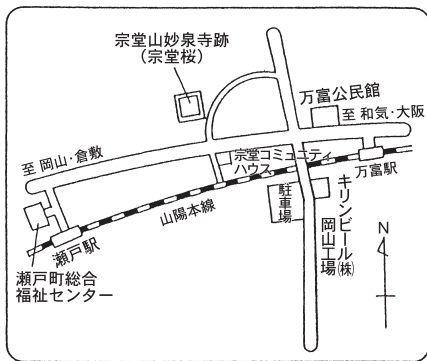
残念ながら、二六〇年前に妙泉寺が廃寺となつて以来、参道の桜並木は荒廃し、現在はその面影を見ることはできませんが、昭和四〇年頃から、現存する数株の桜を母樹として保護し、接ぎ木に成功。現在、妙泉寺跡には七〇本が植栽されており、地元では宗堂桜保存会を結成して、保護活動が活発に行われています。

また、平成九年から一一年にかけては(社)岡山県緑化推進協会から、緑の募金交付金交付事業(巨樹・老樹・名木保存事業)の助成を受けて根頭ガンシユ病

の治療を行っており、さらに多くの花をつけることが期待されております。

花期は吉野桜より一週間程度遅く、山桜より数日早い四月一日から二〇日頃が見頃です。妙泉寺跡では毎年「宗堂さくらまつり」が開催され、多くの花見客が訪れます。

来春の花の頃、この神秘的な花の姿を是非ご覧下さい。



《交通》

山陽本線瀬戸駅から宇野バス万富行きで宗堂バス停下車、徒歩五分。

(東備普及指導区Ag橋本里絵)

普及指導最前線

森林・林業教育への取り組み

久米普及指導区

一、はじめに

当指導区では、平成十四年度から施行される新教育課程における「総合的な学習の時間」に着目し、森林・林業教育の推進に重点を置いた活動を展開しています。

これまで、教育現場における森林・林業教育の意向調査（小学校教員を対象としたアンケート）やホームページの作成に取りかかっており、本誌一月号でも内容を紹介しています。

今回は、アンケート調査結果の概要と今後の活動について紹介します。

二、アンケート結果と考察

アンケートの実施にあたっては、小学校の校長先生ら外部委員に意見を頂きながら設問内容を検討し、管内の全小学校の先生に依頼しました。その結果、

六三八名のうち四九五名（七
七・六％）から回答がありました。

主な結果は次のとおりです。

アンケート調査結果

内 容	結 果
○今後、児童に考えさせてみたいテーマは？	環境55％、福祉25％、国際化7％など
○森林保護等に関する行事に参加したいか？	参加したい 90％
○森林には重要な働きがあると思うか？	ある 97％
○どのような働きが重要と思うか？	温暖化防止35％、水源かん養28％など
○森林・林業の役割について、児童に学習させたいと思うか？	思う 78％
○森林・林業に関する教育を行うあたり、不安となる事柄があるか？	ある93％ 場所41％、人材24％、情報15％など
○林業改良指導員という人達を知っているか？	知っている10％
○森林・林業教育に関する意見（自由記述）	・森林林業の資料、情報が欲しい ・学校との連携を強化してほしい ・森林の大切さを子供達に伝えたい ・まず教師自身の学習が必要 など

平成十二年一月十三日には、

外部委員を交えて、アンケート結果の考察と今後の支援方法について検討会を開催しました。

そのなかで、森林・林業教育をはじめ、「総合的な学習の時間」における体験学習を推進するためには、地域一体となり学校を支援することが重要であり、教育委員会、学校と市町村

及び県（林業改良指導員）の協力体制を構築することが今後の大きな課題になるという結論になりました。そのため林業改良指導員の役割として、①森林・林業教育に関する資料、情報の提供、②人材、フィールドのコーディネート、③授業カリキュラム作成への支援・協力などが求められることになりました。

三、今後の取り組み

以上のことを踏まえ、本年度においても森林・林業教育の推進を普及重点項目に位置づけ、次の事項について活動することとしています。

①モデル校の設定

森林・林業教育を実施するための問題点の整理、子供達の反応を調査、検討するため、二校程度のモデル校を設定したカリキュラムの作成から実践までの支援を行う。

②森林・林業教育講座の開催
アンケート調査の結果、森林・林業に関する情報提供を求める意見が多く、森林保護等の活動への参加を希望する教員が多かったことから、教員を対象として「夏休み森林・林業教育講座」を開催する。

③ホームページの作成
近年、小学校においてもパソコン教育の導入が進んでいることから、子供達のためのインターネットホームページ「森林何でも相談室」を開設し、森林・林業教育の支援体制の確立を図る。

（久米普及指導区 Ag 安東義朗）

木材の需要拡大について

岡山県の民有林は、スギ・ヒノキを中心に一七万二千ヘクタールの人工林が造成され、その蓄積は三千万立方メートルとなっており、これらの森林資源は今後成熟期を迎えることから、木材の利用推進が重要となってきています。

この森林資源の活用は、森林・林業・木材産業の活性化による地域振興を図るばかりでなく、県土の保全や水資源のかん養等の森林の公益的機能の向上にも結びつくこととなります。

しかしながら、木造住宅の不振や外国製品の輸入増加により国産材の需要減退と価格の低迷が続いており、国産材関連産業は厳しい情勢にあります。

このため、県は平成十二年度は県産材の需要拡大を図るため、普及啓発、生産体制の整備等の各種施策を総合的に実施することとしています。

○木の良さの普及啓発

木材は湿度の調節や衝撃を緩和させるほか、情緒を安定させるなど人に優しい自然素材であり、また、空気中の炭酸ガスを長期間保存することから環境にも優しい素材です。

これら、木材の特長について広く県民に理解していただき、県産材の利用を促進するため、各種マスメディアを通じて普及啓発を図るとともに、木工教室やふれあい木材展を開催し、木材の良さを理解してもらうこととしています。

○公共施設等や個人住宅への利用促進

県民のみなさんのふれあう機会の多い公共施設等への利用促進については、木材需要拡大推進会議等により、関係機関に県産材の利用促進を図ることとしています。また、県産材を多用した展示効果の高い民間施設（補助率三分の一）や新築の個人住宅（建築資金の利子補給、



「みまさか木の家」モデルハウス（久世町）

五年間）に対し、助成を行っています。

○高品質な県産材の提供

「建築基準法」の改正や「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の創設がなされており、今まで以上に、建築資材としての木材に対する住宅需要者や工務店等から、品質・性能に対する要求が厳しくなるものと思われます。

県産材の需要を拡大するためには、これらの要求に的確に対応する高品質な木材の生産と乾燥材の供給が重要です。

県では、岡山県木材加工技術

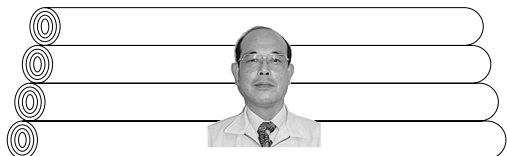
センターでの研修や指導、木材市場での展示会を通じて、高品質な木材生産と乾燥材等の生産技術の向上を促進するとともに、各種事業により生産施設の整備を進め、乾燥材やJAS製材品の提供体制を進めていくこととしています。

今後とも、これらの施策を通じて、関係団体と連携を図りながら県産材の需要拡大を進めていくこととしていますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

真庭普及指導区の紹介

真庭普及指導区は、真庭郡内の四町五村（森林面積：約六万六千ヘクタール）を担当し、十名の林業改良指導員（Ag）が配置されています。

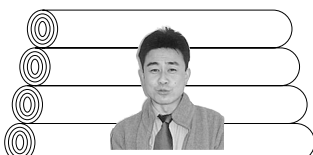
あなたの町のAgを紹介しましょう。森林・林業に関する質問・ご意見をお寄せください。



池田 敏之 地区主任

真庭管内は3年目となりました。
よろしくお願いします。

林業全般担当



石原 則男

担当：川上村、八束村、中和村

山があるから溪流がある、溪流があるから山がある。週に一度は溪流のせせらぎを聞き、ときに魚と話をしています。

（特技：造林）



安東 與四正 担当：湯原町

Ag歴13年になりますが、当真庭管内は初めての勤務地となります。よろしくお願いします。

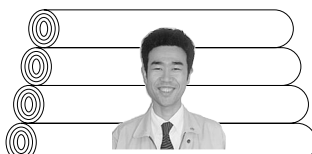
（特技：普及方法）



安東 誠 担当：新庄村

Ag歴8年目で真庭管内は2年目になります。保安林の施業についてのお問い合わせ等は、私まで。

（特技：機能保全）



田畑 秀将 担当：美甘村

普及活動をととして地域の人達をふれ合うことを大切に美甘村へ今日も行く。

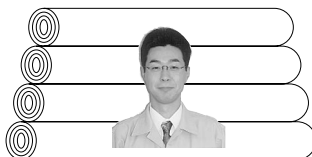
（特技：森林保護）



掛屋 晶則 担当：勝山町

森林ボランティア活動のご用命は私にお申し付けください。お子様からお年寄りまで幅広いお付き合いがモットーです。

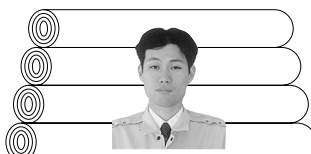
（特技：林業機械）



坂前 清治 担当：勝山町

Ag3年目、間伐事業を担当しています。皆さんのお役に少しでも立てよう頑張ります。

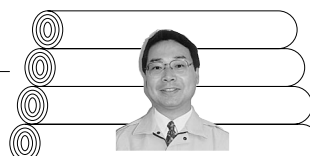
（特技：造林）



小川 裕 担当：久世町

Ag歴一ケタ。森林病虫害、林業金融を担当しています。

（特技：林業経営）



金田 利之 担当：落合町

本年度、木材加工技術センターから森林課へ配属してきました金田です。Agは初めてですが、研究での経験を生かして頑張りますので、よろしくお願いします。

（特技：林産）



高富 玄 担当：落合町

しいたけと醍醐桜と羊羹の町落合町においでください。

（特技：特用林産）

「おかやま森づくり県民基金」について

二十一世紀岡山の森林を支えるために

岡山県では、森林の公益的機能の受益者である下流域の市町村や企業、都市住民の方々の連携と協力のもと、緑豊かで健全な森づくり・県土づくりを推進するため、「おかやま森づくり県民基金」を設立しました。

森林は、山村地域の方々により長年にわたり整備されてきましたが、過疎化や高齢化、木材価格の長期低迷により放置が進み、荒廃の危機に直面しています。このままの状況を放置すれば、森林の持つ優れた機能や役割が大幅に低下し、私たちの生活さえも脅かされる恐れがあります。

このため、今日の森林荒廃の危機を山村地域の方々だけでなく、県民全ての問題として理解いただき、多くの方々の参加と協力のもと、本県の森林を守り

育て、より良い姿で次の世代に引き継ぐことが望まれています。

今後、募金活動や基金事業の実施について、御支援・御協力をお願いします。

◎県民基金の目標・運営

県、市町村、企業、団体、県民等の協力により、平成十二年度から五億円を目標に造成することとしています。

この基金で行う各種事業の箇所や事業費は、運営委員会で審議され決定されます。

◎基金事業の内容

一 県民の森林活動への参加促進への支援

- ① 県民参加で管理する「おかやま共生の森」での森林活動の支援

- ② 市町村等が主催する森林活動を促進する行事への支援

二 水を育んだり、保健休養の

場を提供する公益的機能の高い重要な森林の整備への支援

◎県民基金についてのお問い合わせ先

岡山県農林水産部林政課

美しい森づくり推進班

☎〇八六―二二六―七四五二

▼▼▼図書のご案内▼▼▼

(社)全国林業改良普及協会の新
刊案内

■森のセミナー No.4

「私たちの人工林―再生資源をつくろう、つかおう」



本体価格 一、〇〇〇円

(税・送料別)

私たち日本人が造ってきた一〇〇〇万♥を越える人工林。再生できる資源として注目されている人工林の役割や木材資源としてのこれからの利用をわかりやすく解説しています。

施業技術だけでなく、人工林の生態的役割、伐採機能、再生する人工林の姿、フォレストスケアップ等のほか、森林認証制度や間伐材の利用等の新しい視点が加わっています。

人工林技術を整理したイラスト資料として、専門家の方でも活用できます。

■「森林・林業視察ガイドブック」全国林業普及指導職員協議会／編集協力



本体価格 三、五〇〇円

(税・送料別)

森林林業分野の全国七〇〇あまりの事例を紹介。木材生産はもとより、水源の森、森林レクリエーション、市民参加型の森林管理、山村への移り住む田舎暮らし思考、など、森林と私たち日本人との関わりを示す事例も紹介しています。

■お問い合わせは、岡山県林業改良普及協会か各支部へ

林産物市況

製材 (4月下旬)

杉 正 角 3 m			桧 正 角 3 m			桧 正 角 3 m		
寸法	等級	安値—高値 (千円)	寸法	等級	安値—高値 (千円)	寸 法	等級	安値—高値 (千円)
6.0	一等	25—30	6.0	一等	40—45	10.5	特等	80—90
7.5	一等	20—22	7.5	一等	33—35	12.0	特等	105—110
9.0	上一	16—18	9.0	上一	18—20	〃	上小	120—130
〃	一等	20—22	〃	一等	28—30	13.5	特等	90—95
10.5	一等	33—40	10.5	一等	65—70	〃	上小	100—120
〃	特等	40—45	〃	特等	78—80	ラ ス 板		
〃	上小	55—60	〃	上小	110—150	2 ^m 1.2× 9.0		20—23
〃	無節	70—90	〃	無節	180—200	3 ^m 1.2× 9.0		20—23
12.0	特等	35—40	12.0	特等	73—85	2 ^m 1.5×10.5		25—28
〃	上小	50—60	〃	上小	110—150	2 ^m 0.9×24.0		65—70
〃	無節	60—70	〃	無節	180—200	2 ^m 1.5×21.0		33—37
長 サ 4 m			長 サ 4 m			造 作 材		
6.0	一等	35—38	6.0	一等	45—50	杉 4 ^m 3.0× 3.0	無節 (本) 6—8	
9.0	上一	20—22	9.0	上一	28—30	杉 4 ^m 4.0× 4.5	無節 (本) 12—20	
〃	一等	28—30	〃	一等	45—48	杉 4 ^m 4.5×10.5	無節 180—200	
10.5	特等	40—45	10.5	特等	75—80	桧 4 ^m 4.5×10.5	上小 150—200	
12.0	特等	38—40	12.0	特等	70—77	桧 4 ^m 4.5×10.5	無節 250—300	

木 材 (4月下旬)

長さ	径 (cm)	杉 (千円)	桧 (千円)	松 (千円)
3 m	7—12	10	10	—
	13	15	26	—
	14—16	22	37	—
	18上	18	38	13
4 m	7—12	12	15	—
	11—13	—	—	—
	14—16	—	37	—
	18上	16	30	23
6 m	14—16	—	58	—
	18—20	—	47	—

乾しいたけ (4月中旬)

名柄別	価格	価格kg当り (百円)	
		平 均	高 値
香 信 大 葉		46	57
〃 中 葉		42	58
〃 小 葉		16	47
バ レ 大 葉		32	42
〃 中 葉		22	38
ス ラ イ ス		19	19
香 茹		55	84
上 冬 茹		51	63
並 〃		39	57
並 並 〃		27	55
小 玉 〃		16	23
格 外 品		—	—

編集後記

○新緑のさわやかな季節となりましたが、会員の皆様方には元気に活躍のことと思います。
今年度第一号の「林声」をお届けします。

○隔月毎の発行で紙面も限られておりますが、県内の森林・林業をめぐる情報のほか、各地域の情報を掲載したいと考えております。皆様方の投稿をお待ちしております。

○次回は、七月一日の発行予定です。
(B)